

2015アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト 報告書

日本学校名[多摩市立東愛宕中学校] 担当教諭名[武井 文] (美術部 6名)

交流相手国[インドネシア]

海外学校名[SMP Islamic Al Azhar 9] 担当教諭名[Dian Novrini]

■実施教科・時間数について教えてください。

アートマイルに関連した 実施教科・時間数	教 科	単 元 名	時間数
	部活動	アートマイルプロジェクト	80

■作品について教えてください。

題 (テーマ)	Festival
絵に込めたメッセージ	共同学習として、日本とインドネシアの生徒の共通の興味であるマンガの構図を模したデザインで、「祭り」をテーマに制作した。作品から、両国の類似点や相違点を楽しみながら、異なる文化を受け入れて交流していこうという思いを表現している。
	

■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
・タブレットや翻訳ツールを活用し、英語を用いた自己紹介画像を作成できた。 ・テレビ会議により、相手の顔が見える状態でコミュニケーションを取ることができた。それにより、生徒の協働学習に対する意欲を高めることができた。 ・壁画の題材にある地域の祭りに参加し、調べたことを実際に検証することができた。	・自国の祭りについての学習が、表面的な内容で終わってしまった。 ・調べたことや感想などを文章でまとめることができなかった。また、英語に翻訳することがハードルとなり、すぐにフォーラムに掲載することができなかった。 ・調べたり考えたりする時間が多く、長期の活動のため、生徒のモチベーションを保つことが難しかった。

■アートマイルに取り組む前と比べて相手国や世界に対しての意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
活動当初、参加生徒は外国に対しての興味がそれほどなかったと思われる。協働学習を通して、英語の文章を書いたり英語を話したりすることにより一層積極的に取り組むようになった。また、参加生徒はインドネシアの生徒たちが自分たちと同じようにマンガなどに興味をもっていることを知り、交流する喜びを感じることができた。	アートマイルに取り組んで、インドネシアをとっても身近に感じるようになった。また、観光地ではない地域や、人々の生活の様子を考えるようになった。活動を通して、思っていることを英語で表現したり伝えたりすることの難しさを感じたが、テレビ会議等で顔を見て会話できたことで、相手校の生徒や教員に対しより親密な気持ちをもてた。学校間だけでなく、両国の関係について、今後も意識していきたいと思う。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活 動 内 容	児童生徒の反応	実施教科等
自己紹介	8月	・自分たちの写真や学校内の写真を撮影し、紹介画像を作成する。 ・英語による自己紹介文を考える。	自分たちの学校にどんな特色があるのか考えて撮影していた。またタブレットやコンピュータを用い、翻訳サイトを活用して紹介文を作成した。	部活動
テーマ学習	9月 10月	・インドネシアについて、インターネットや書籍を用いて調べる。 ・協働学習のテーマを考える。 ・テーマや構図についてフォーラムで提案し、やりとりする。	インドネシアの食べ物や観光地などを調べたことで、相手校について関心をもつようになった。また、日本について紹介するため、自国の文化について考えるようになった。	部活動
構図決定	11月	・「祭り」をテーマに決める。 ・テレビ会議で自己紹介や、テーマについての学習状況を報告し合う。 ・フォーラムにて学習状況の報告や構図や下絵について相談する。	身近な祭りや地方の祭りを調べること、日本の伝統文化について興味をもつこともできた。またテレビ会議を通して、コミュニケーションを取る楽しさを感じることができた。	部活動
壁画制作	12月	・日本側が描く題材を決める。「より伝わる」ために、絵の内容や、制作の分担を決める。 ・配色、制作の進め方を決めて、全員で着彩する。	どんな絵柄だと祭りの内容がより伝わるか、考えながら取り組んでいた。絵柄が決まってからも、色づくりや構図に悩む場面があったが、協力して取り組んでいた。	部活動
鑑賞・振り返り	3月	・作品とともに記念撮影。 ・作品を鑑賞し、感想をフォーラムで伝える。	完成した作品を見て「すごい！」という声が上がった。どんな祭りが描かれているのか、どんな描き方をしたのかを考えて鑑賞していた。	部活動

■学習目標(つきたい力)と成果(ついた力)について教えてください。

「目標」先生が指導に当たって重視したことをABCで記入（A:特に重視した B:重視した C:特に重視しなかった）

「成果」先生の手応え（5:とても身についた 4:身についた 3:どちらともいえない 2:あまり身につかなかった 1:身につかなかった）

学習目標・つきたい力	目標	成果	成果についてそう感じた場面・理由
自文化の理解	B	4	相手校の生徒に日本について紹介したり、学習テーマとして日本の祭りについて調べたりしたことで自文化の理解が深まった。
異文化の理解	A	4	相手国の郷土料理を作ったり、完成した壁画を鑑賞したりしたことで、相手の文化を理解したいと思うようになった。
コミュニケーション力 (説明・共感・英語)	A	5	教師や翻訳サイトの助けを借り、英語で話すことに意欲的に取り組んでいた。テレビ会議ではより積極的に会話を試みていた。
情報活用能力 (情報収集・発信)	B	3	主にインターネットを用いたが、時間をかけても浅い知識しか得られないことが多かった。「何を調べるか」を具体的にして作業させるべきであった。
人間関係をつくる (学級内・交流相手)	B	4	共同学習を通して、部活内の人間関係がより強まった。また、生徒は相手校の生徒のことをもっと知りたいと思うようになった。
協働する力 (役割分担・協力)	B	4	壁画の分担が決まってから、集中して学習するようになった。他の生徒の状況を見て、声かけしたりよう手伝う場面も見られた。
学習を追究する意欲	B	4	壁画が完成した後も、もっと相手国について知りたいという声があがった。また、地域の祭りに積極的に参加する姿が見られた。
表現力 (伝えたいことを絵で表す)	A	4	テーマについての理解は浅かったが、それぞれの「祭り」の様子を伝えるための絵柄や構図を考えて、壁画制作に取り組んだ。
作品を鑑賞する力	B	4	相手校の壁画のよさを見つけ、描かれている祭りについて考えたり、日本の祭りとの共通点を発見したりと主体的に鑑賞できた。